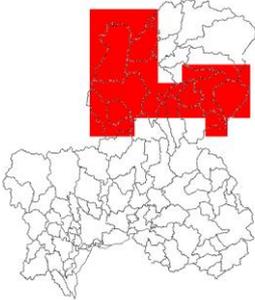


ミヤマワレモコウ		<i>Sanguisorba longifolia</i> Bertol.	準絶滅危惧
			バラ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。		写真(高野裕行) 
形態の特徴	多年生草本。茎は上部で分枝する。葉の小葉は7-13、楕円形-長楕円形。花穂は円柱形で直立し、長さ(1-)2-4cm。花は7-8月、花穂の先端から咲き始める。花穂は直立し、帯緑白色-淡赤紫色-暗紫色。雄蕊は萼片より長く、突出し、宿存する。雌蕊1。		
生態的特徴	山地から亜高山帯の湿地や湿った草原に生える。		
分布状況	北海道、本州北中部。朝鮮、中国。県内では山地帯の分水嶺近辺の湿原にやや稀に生育する。		
減少要因	生育地である山地の湿原の埋め立てなどの開発による消失。		
保全対策	生育地である山地の湿原の埋め立てなど開発の抑制。		
特記事項	類似のナガボノワレモコウ <i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fisch. ex Linkが平地-丘陵地(標高約200m以下)に生育するのは異なって、標高1,000m前後以上の山地帯-亜高山帯に分布する。		
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 27. <i>Sanguisorba</i> L. N. Naruhashi		

文責: 高野裕行